



本丸だより

令和3年度 第12号 令和4年3月23日(水)
新発田市立本丸中学校
新発田市緑町2-7-22
TEL 0254-22-2525
FAX 0254-22-0342
<https://honmaru.shibata.ed.jp/>



笑顔の春きたる

校長 三浦 学

満開の笑顔の春を迎えました。「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」との言葉があります。厳しい寒さ、困難な状況の中でしっかり根を伸ばし、卒業生が無事公立高校を受検し笑顔の花を咲かせてくれました。おかげさまで受検前日の3月2日には卒業式も無事挙行でき、明日24日には終業式を迎えます。今年度一年間の保護者、ご家族、地域の皆様のご理解、ご協力、ご支援に心より感謝し、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

3年生の卒業にあたり、対面の送る会に代えて2年生、1年生が作成した動画や感謝のメッセージが贈られました。在校生の卒業式参加は今年度もかないませんでした。準備や後片付けの際の動きも見事なものでした。心を込めてあたたかく3年生を送るその姿から、2年生、1年生の感謝の思いが感じられるとともに、この1年の確かな成長が感じられました。

また、前号でお伝えした新生徒会、生徒会三役や書記局員、新専門委員長もそれぞれ動き始めています。4月からの新しいスタートに向けて、期待も大いに高まります。

医学部合格。福岡堅樹さんは、2019年ラグビーワールドカップでも日本代表として活躍した後、医学部を受験し合格しました。2013年に大学2年生で日本代表に選ばれてから、これらを目標に取り組んできたとのこと。並大抵ではない目標を達成したわけですが、そこに至るまでには、さまざまなきごとがあったそうです。全国大会をめざしていた高3のとき、膝前十字靭帯断裂。医学部をめざした大学受験に二度失敗し医師になる夢を延期。2015年ワールドカップに向けた日本代表の合宿では、ラグビーをやめることまで考えた。そして、東京五輪出場断念。

福岡さんは、こう言います。「周りからは一つひとつが『挫折』に見えたかもしれない。しかし、それらがすべてつながって今の自分がある。どれも自分の人生にとっては必要不可欠の出来事だった」と。そして、こう続けます。「いくつかの困難を乗り越えることができたのは、その時々自分を信じたからだ。自分の努力を信じ、自分の選択を信じ、自分の能力を信じた」「目標に向かってやると決めたからには『必ずその目標は達成できる』と信じてやらなければ結果には結びつかない。信じることは力になる」と。(参考・引用図書『自分を信じる力』)

「本気で信じることができれば、未来は変わる」と福岡さんは言います。2019年ワールドカップで優勝候補のチームに勝つことができた「最大の勝因は、自分たちがやってきたことを信じていたことだ。自分たちを信じたことが勝利へと導いてくれた」「できないと決めつけない。自分の可能性を小さくするだけだから」と言うのです。(同上掲書より)

数々の困難を乗り越えてきた令和3年度も結びとなりました。今、ウクライナの方々が大変な思いをされています。平穏な毎日を送れることに感謝し、自分たちがやってきたことを信じて、できると思って、生徒の皆さんが、なりた未来をつくっていけるよう、4月からの新たなスタートがきれることを願っています。来年度も変わらぬご支援をお願いいたします。